

安積開拓入植者住宅（旧坪内家）とは？

鳥取開墾社

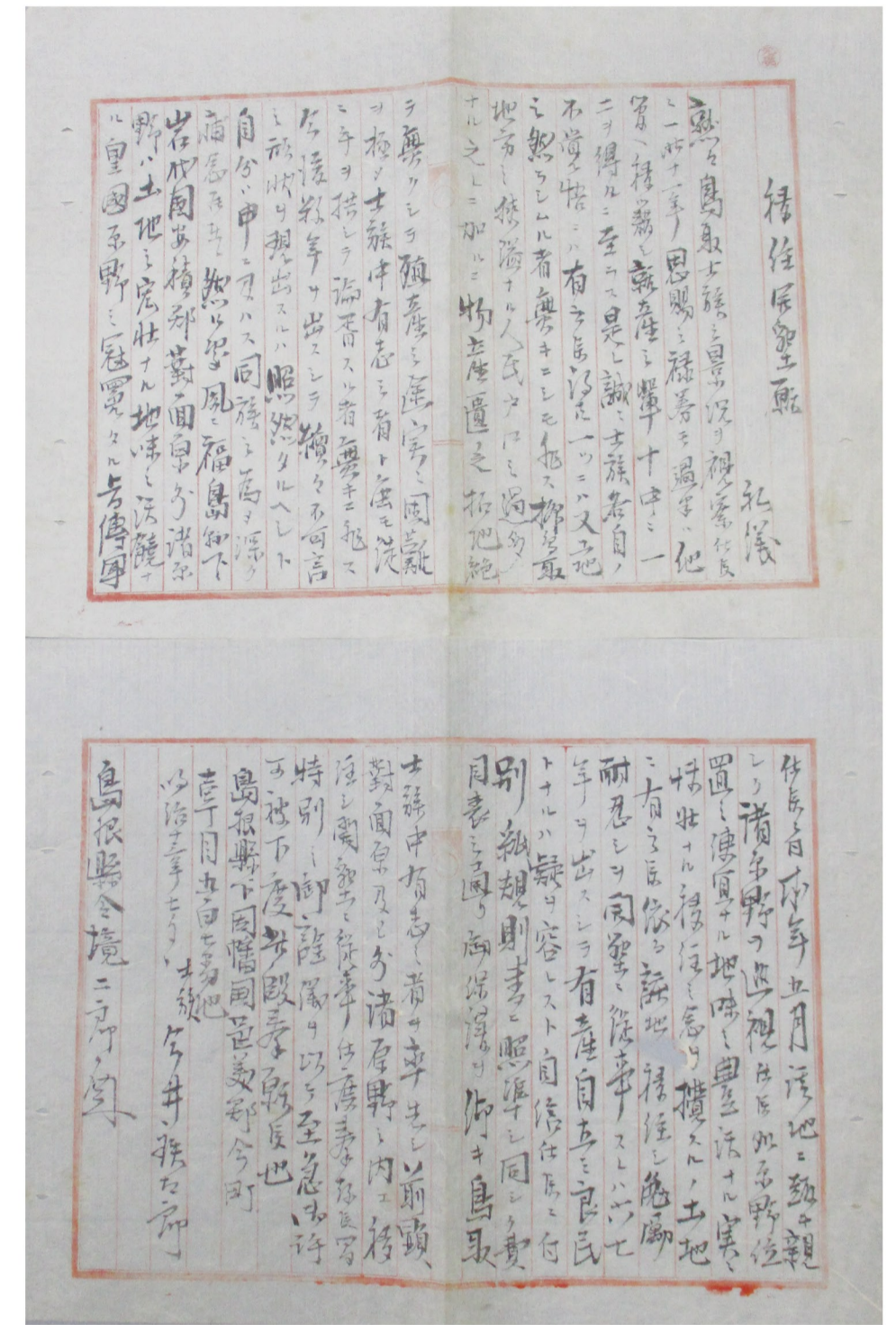
明治13年(1880)から旧鳥取藩士族により結成された「鳥取開墾社」が広谷原(現在の郡山市喜久田町)に移住入植した。

「鳥取開墾社」を結社した今井鉄太郎らは、自由民権結社である「共立学舎」の人々だった。政府から警戒されていた共立学舎だったが、明治10年(1877)に起こった西南戦争で政府の要望により壮兵募集を行った。平定後は募集した壮兵は解散となった。

松方正義内務卿は、今井鉄太郎に鳥取県士族の開墾事業への参加を勧めた。鉄太郎は、共立学舎の同志に士族授産の趣旨を説明したところ、一同賛同し、開墾結社である「鳥取開墾社」が結社された。

鳥取開墾社では、自由民権思想に基づいた規則が作られ、束縛しないことや自己責任などが特徴である。鳥取開墾社より先に入植した旧久留米藩士族による久留米開墾社の共同作業、収穫物共同の様子とは全く異なる。同じ国営安積開墾事業の枠で入植した人々だが、その背景や実態は一人ひとり違うものであった。

「鳥取開墾社」は、広谷原の北半分に入植した。同じ広谷原のうち南半分は、旧高知藩士族による「高知開墾社」が入植している。高知開墾社は、鳥取開墾社と同じく自由民権運動結社の人々であった。



移住開墾願
宇信神社文書 宇信神社蔵

安積開拓入植者住宅（旧坪内家）

「安積開拓入植者住宅（旧坪内家）」は、平成11年(1999)に坪内家の子孫により郡山市に寄贈され、平成16年(2004)に郡山市政施行80周年・合併40年記念事業として、郡山市開成館敷地内に移築された。旧坪内家の資材を用いて、第一号住宅の図面を基に復元している。

「安積開拓入植者住宅（旧坪内家）」は、旧鳥取藩(因州藩)士族の坪内元興^{もとおき}の住宅である。坪内元興は鳥取開墾社の副頭取を務め、開墾地において社の発展に尽力した。坪内家は、元興が副頭取であったことから、公的な使用も想定されて建築された。実際に、坪内家を黒田清隆^{ありのり}や森有礼ら政府高官が休憩所として利用している。



被災した安積開拓入植者住宅(旧坪内家)の様子(座敷)



被災した安積開拓入植者住宅(旧坪内家)の様子(西側外壁)



復旧工事の様子(土間)